

平成 29 年 3 月 15 日

釜石市議会議長 佐々木義昭 様

経済常任委員会
報告者 千葉 榮

「行政視察報告書」

経済常任委員会による行政視察を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 視察項目

三重県志摩市 「観光行政について」
三重県伊勢市 「スポーツ誘客推進事業について」
滋賀県甲賀市 「有害鳥獣被害防止対策について」

2 視察日程 平成 29 年 1 月 24 日（火）～ 平成 29 年 1 月 27 日（金）

平成 29 年 1 月 25 日（水） 三重県志摩市
平成 29 年 1 月 25 日（水） 三重県伊勢市
平成 29 年 1 月 26 日（木） 滋賀県甲賀市

3 参加者

- ・経済常任委員会（5 名）
木村琳蔵委員長、佐々木聡副委員長、合田良雄 委員、赤崎光男委員、千葉榮委員
- ・市長部局（観光交流課）佐々木利光課長補佐
- ・議会事務局 菊池孝行主査

4 研修内容

（1）三重県志摩市 平成 29 年 1 月 25 日（水） 10 時 30 分～12 時

志摩市の概要 人口 52140 人

三重県の東南部に位置し、北部は伊勢市および鳥羽市に、西部は南伊勢町に接し、南部および東部は太平洋に面している。

市全域が伊勢志摩国立公園に含まれ、英虞湾、的矢湾といったリアス式の海岸が特徴的で、湾内をはじめ、大小の島々も点在する自然豊かな地域。

気候風土は、四季を通じて温暖で恵まれた条件となっており、気温は年平均 15～17℃。

真珠養殖発祥の地としても知られている。

○観光行政について

伊勢志摩サミット開催による観光地としてのPR（開催前と開催後のPR方法）
（開催前）

1カ月、東京、埼玉、神奈川のJR主要19駅構内で、映像を利用したPRを行った。

（開催後）

二次交通が不便で、近鉄で志摩市に入っただき、その後、観光スポットへ行く時にバスが無いとか、タクシーで行かなければならないとかが有り、若い方なら自転車を鵜方でレンタルし、一日を走っていただくということで、自転車マップを作成した。

外国人観光客誘致への取り組み

- ・志摩市インバウンド事業は、平成25年度から本格的に始めた。
- ・インバウンドの専門の方を観光協会の中において、東アジア（台湾・中国・香港・韓国）を中心に誘客活動をしていただいている。

漁業を通じた観光施策

- ・志摩は真珠養殖の発祥の地であるが、1966年頃、真珠養殖業者は、3100人くらいいたが、2013年の統計では315人になり、10分の1くらいに減少しているため、アコヤガイを選んで、開けて、真珠を取り出して、磨いて、その場でアクセサリーを作る体験を行っている。
- ・海女の文化を政界に発信していこうということで、海女サミットを毎年開催しており、海女小屋というところで、疑似体験をできる施設を作って、海女さんに話を聞きながら、食事をしていただくことも行っている。
- ・定置網漁船、伊勢エビ漁業船へ乗せていただくとか、修学旅行生に地引網漁の体験、カキ漁の見学なども行っている。

主な質疑応答

Q：外国人観光客の受け入れ対策、通訳の関係で参考にしたいが、民泊を進める上での言葉の心配は。

A：来年度考えているが、観光協会が行う事業があり、伊勢志摩サミットが開催されて、東アジアだけではなく欧米からも観光客が来るので、宿泊施設の事業者を対象とした外国人セミナー（勉強会）を事業としてやっていただく。

Q：漁業者の減少に伴う漁業の担い手は。

A：ホテルに宿泊していただいた方を漁業体験に連れて行くといった協力体制をとっ

ていることと、受け入れてもらっている地区のイセエビ漁を継いでいる若い漁業者が、一生懸命情報を発信して、そこで、漁業以外でもお金が落ちる仕組みを作ろうと考えて動いている。

所感

現在、当市では、橋野鉄鉱山の世界遺産登録により来訪者が増えており、2年後にはワールドカップ2019の開催に向け取り組む中、国内外から多くの来訪者を見込んでいる。

志摩市として、サミットという大きな行事を生かした観光への取り組みと、外国人観光客の誘致、漁業を通じた観光施策、また、知名度を向上させるため、スポーツ関連の合宿等も募集、及びオリンピックや国体の合宿地として手を挙げるなど、取り組んでいる。

当市においても、今後、スポーツ観光、漁業・地域協調のメニューの検討、地域主体の企業との連携・育成と地域に対応した、県への要望活動など慎重な取り組みが肝要であると感じた。

(2) 三重県伊勢市 平成29年1月25日(水) 14時30分～16時

伊勢市の概要 人口 128800人

三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置し、伊勢志摩国立公園の玄関口として、豊かな自然と美味しい食材に恵まれた本市には、歴史と文化に富んだ名所・旧跡も多く、魅力ある地域資源があふれている。

また、古くから「お伊勢さん」「日本人の心のふるさと」と呼び親しまれてきた伊勢神宮を擁し、神宮御鎮座のまちとして栄えている。

○スポーツ誘客推進事業について

施設整備の状況

ここ数年で伊勢フットボールヴィレッジと倉田山公園野球場が大きく整備され、誘客として活用が多い施設となっている。

誘致に向けたPR方法

- ・市内での各種スポーツ大会、合宿を誘致して、その人数に応じて補助金制度を設けて支出している。この補助金の内容は、市内でスポーツ大会もしくは合宿を行うことが対象で、宿泊者に対する支出制度になるので、延べの宿泊者数が30人以上で、伊勢市に宿泊することに限らせてもらっている。ただし、大会については、伊勢市だけでは開けないケースもあるので、近隣の市・町で行う場合でも補助金を出している。

- ・PRには、この事業のチラシを平成25年度に中部・近畿の大学に送付し、平成26年

度には、四国・中国地方の大学にも送付した。平成 27 年度には、大学学生生協にチラシを送付して、平成 28 年度は平成 26 年度と同じ、中部・近畿・四国・中国の地域の大学に送付した。単純に大学宛てにダイレクトメールで送付するのではなく、各学校で取り扱っている部署を調べて、そこに直接送って制度を周知している。

- ・利用実績は、現行制度になった平成 25 年度で 53 件、交付額 1223 万円。翌 26 年度には、補助金制度が周知されてきたのか、倍の 102 件、交付額 2 千万円を超える。
- ・種目別は、サッカーで伊勢フットボールヴィレッジの活用が多い。

スポーツを活用した観光振興

・中日三重お伊勢さんマラソンの開催、今後は第 46 回全国自治体職員サッカー選手権大会、全国高校総体、国民体育大会の開催が予定されている。

地域の観光資源との連携による観光施設への誘客効果

- ・現在、大きな大会等を誘致する具体的な動きは無い。
- ・伊勢フットボールヴィレッジの A・B ピッチを対象とした予約の部分で、誘客に係る視察の先行制度を設けており、宿泊日数などの一定条件を満たした場合は、半年前から予約が可能となる。特に利用頻度が高い大学等の合宿になってくると、長期の休みもしくは平日利用が見込まれるので、特に宿泊施設の方が押さえているケースがあるので、その辺が、一般の伊勢神宮参拝だけではなく、スポーツにおける誘客効果が見込まれている。

市内への宿泊の状況

平成 27 年、伊勢市観光統計による市内宿泊者数は 574770 人。

主な質疑応答

Q：ここは人口芝である。ラグビーなどトップ試合は、天然芝でなければならないのか。

A：サッカーもそうだが、国際試合を含めての試合は、天然芝が必ず必要となる。その中、代表合宿はできないかと相談していたこともあったが、芝の関係でできない。あとは、宿泊施設もスポーツ施設に隣接していなければならないということもあるので難しい。

野球場に関しても、プロ野球のオープン戦は開催したが、公式戦はプロの規定に達していない部分があるので、社会人レベルまでの試合しかできない現状となっている。

Q：トップチームを除いたクラブチーム、高齢者などの大会になれば人口芝でも可能

ではないのか。

A：大学くらいまでであれば、年間委託で伊勢フットボールを活用した大会の誘致等を委託事業にしている関係もあり、そこで、まず、何大会が開催しているのが現状である。

Q：宿泊施設の現況は。

A：スポーツに関しては合宿が多いので、この地域では二見町は以前、修学旅行で栄えていたが、今は、合宿誘致に取り組んでいる。

伊勢市は宿泊施設の数、志摩市、鳥羽市と比較して圧倒的に少ない。

Q：人工芝は維持管理がかからないのではないのか。

A：耐用年数（10年くらい）があるので、これから行われる高校総体、国体に向けて、ピッチの人口芝を張り替える予定である。

Q：人工芝の張り替え費用は。

A：1億4千万円を見込む。

所感

当市では、2年後のワールドカップ2019の開催に向け取り組む中、ワールドカップ終了後のスタジアム管理維持費などが懸念されているなか、伊勢市では、維持管理費確保のため、市内での各種スポーツ大会、合宿を誘致し、人数に応じて補助金制度を設け、市内でスポーツ大会もしくは、合宿を行うことが対象で、伊勢市の宿泊者に対して補助を行なっている。但し、大会については、伊勢市だけでは開けないケースもあるので、近隣の市・町で行う場合でも補助金を出すなどの活動をしている。

当市においても、今後、市内での各種スポーツ大会、合宿を誘致するため、公募用チラシなど作成し、全国の各高校・大学などにチラシを送付するなど、誘致に向け取り組むなど、官民の連携した、取り組みが必要であると感じた。

（3）滋賀県甲賀市 平成29年1月26日（木） 13時30分～15時30分

甲賀市の概要 人口 91724人

滋賀県東南部に位置し、大阪・名古屋から100キロメートル圏内にあり、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交通拠点に位置している。その東南部は、標高1000mを超える山々が連なる鈴鹿山脈により、西南部は信楽盆地とこれらに続く丘陵性山地により各々三重県、京都府に接し、鈴鹿山系を望む丘陵地で、野洲川・杣川・大戸川沿いに平地が開け、また森林も多く琵琶湖の水源涵養、水質保全にも重要な地域となっている。

○有害鳥獣被害防止対策について

被害鳥獣に即した効果的な施策

ニホンジカ、イノシシの対策は、侵入防止柵と捕獲頭数を上げていくことの２つにつきののではないかと。

・ニホンジカ

侵入防止策の整備と有害捕獲にかかる報償費を国や県からくるものに加えて、市費も上乗せして支払っている。こういったことで、被害額が減少傾向にある。

・イノシシ

侵入防止策の整備と報償費の上乗せによって、捕獲頭数がふえ、被害額が減少していたが、一定被害が下がった平成 25 年からは戻ってきている傾向がみられる。柵を破壊して中に入ることや、一度圃場に入ると全滅するくらいにしてしまう。頭数が増加傾向で、捕獲しても増え続けている。最近では市街地への出没もみられる。

釜石ではほぼ確認されていないようであるが、今後流入してきた場合は、増加の速度がかなり激しいので注意してほしい。

・ニホンザル

囑託職員が毎日、テレメトリー調査（発信器を取り付けた）を実施し、市内の居場所を確認している。

これを地元のかたに発信し、防除に役立てていただいている。

大規模な捕獲を実施しているので、農業被害については減少傾向を見せている。ただし、生活圏の拡大により生活環境への被害が増えている。

・アライグマ

平成 18 年の最初の捕獲から生息域がふえて、今では市内全域に生息している。囑託の専門員が現場調査して捕獲することをしているが、農作物被害だけではなく、家に侵入して糞尿し、子育てをする。農作物被害というよりも生活環境への被害が多い。

繁殖力が強く、天敵もいないので、一度入ると増加のスピードが速いので、出始めにいかに対応するかである。

・ハクビシン

甲賀市では生息しているが少ない。被害は一部の果樹園である。アライグマの捕獲わなに入ることがある。

・カラス

集団営巣によって、糞や抜けた羽、鳴き声による生活環境被害が問題になっている。

大規模に営巣していた所を間伐したことにより、一時的ではあるが、散り散りになった。しかし、また戻り始めて、糞や鳴き声による苦情が出てきている。

追い払いをしても別のところに動くので、捕獲は年間数十羽しているが、もともと何千、何万の単位であり、根本的な解決は難しい。

住民（地域）との連携による被害防止対策

- ・地域ぐるみで捕獲推進にあたっている山内自治振興会の取り組みがある。
- ・アライグマ捕獲従事者登録制度

捕獲が市内全域にいつているので、それぞれの自治会に声をかけて、自治会の中から推薦されたかたを捕獲従事者として講習会を受けていただいた後、檻を貸し出して、捕獲に従事していただく。

捕獲したものは、市役所に持ってきていただいた場合に、3千円を支払いし、市のほうで処分を行っている。

住民（地域）の取り組みに対する行政からの支援

狩猟免許取得支援補助、防護柵等設置補助などがある。

猟師の数と年齢構成

平成28年8月時点で、242人。年齢構成は、60歳以上で全体の6割を占めている。そのうち実際従事している猟友会の会員は146人でうち104人が60歳以上となる。市内で一番多く捕獲しているかたは、82歳である。

○山内自治振興会の取り組み事例について（山内自治振興会 馬場重夫会長）

山内地域（9集落、314世帯、890人、高齢化比率が39.55%）

農林水産省の鳥獣被害対策優良活動表彰で生産局長賞を受賞することにより、県外からも視察に来ている。

自治振興会は甲賀市が「地域の課題は地域で解決する」をモットーに、平成23年度からおおむね学区単位で設置を呼びかけた組織である。

典型的な過疎地域であり、このまま何もしなければ、確実に限界集落になるという強い危機感のもと、鳥獣害対策、若者定着、少子高齢化対策の三本柱として活動している。特に、鳥獣害対策はこれを解決しないと地域から人がいなくなるのではないかと、最重要課題に位置付けている。

恒久柵の設置と点検整備体制、有害鳥獣捕獲の実施、捕獲した獣の利用、野生獣を引き寄せない対策、地域振興への結び付けを行っている。

活動の成果として、平成22年度から5年をかけて域内の獣害がゼロになった。

捕獲はドロップネットの効果により右肩上がりとなっている。 囲いなしでも作っていたトウモロコシなどの野菜作りが復活してきた。 獣害への取り組みが目に見える成果を上げたことで、他の活動にも刺激になっている。 干し柿の復活や、アロニアなどの特産物が地域の新たな誇りになってきつつある。

活動によって小学生や若者が従事することにより、次世代の地域づくりに通じる活動になるのではないかな。

主な質疑応答

Q：禁猟区の設定は。

A：県からの指導もあり、通常の区域としては猟期と同じ区域でしか許可を出さない。特殊なケースとして、そのエリアに入ってしまったて、別の許可を出さなければ保護できないと言う場合は、別の形で許可を出している。

Q：猟師の数を減らしていけないと思うが、若い人たちに繋げていく、数を減らさない方法は。

A：地域のことは地域で守っていただきたいと考えている。狩猟免許の取得には、補助を出しているので、ほぼ自己負担が無いことになる

それに法定猟具の購入補助も出している。ニホンジカの保護1頭につき2万円の報償費をだしているので、獲っていただければ地域で活動していただく分には支障のない形にはできるのでないかな。

Q：各種補助によって、猟師の数は増えているかな。

A：微増か現状維持である。全国的には減っていると思うが、補助を出している関係で平行線をたどっているのではないかな。また、一気に大量保護できるドロップネットや罠い罠をやって試していただいて、現実として保護数としては一定効果あると思う。

所感

当市においては、ニホンジカやニホンザルなどの鳥獣による農作物への被害のほか、自動車や列車との衝突事故による被害も発生している。最近では、威嚇するニホンザルの出没やイノシシの目撃例など新たな問題が出され、その対策が急がれている中、「鳥獣被害対策優良活動表彰」で表彰を受け、有害鳥獣被害防止対策に積極的な取り組みを行っている甲賀市での研修を受け、当市においても、国や県の補助事業を活用しながら、獣害の防止柵の設定、捕獲対策を進め、行政だけでなく集落ぐるみで行くことが、何より重要ではないかなと考える。

平成28年度 経常任委員会行政視察 記録写真

○三重県志摩市（平成29年 1 月25日）



志摩市議会 西崎議長 歓迎挨拶



木村琳藏委員長 挨拶



研修風景



志摩市役所玄関前

○三重県伊勢市（平成29年 1 月25日）



議会事務局 山口係長 概要説明



木村琳藏委員長 挨拶



研修風景



伊勢フットボールヴィレッジ

○滋賀県甲賀市（平成29年1月26日）



甲賀市議会 森田産業建設常任委員長挨拶



木村琳藏委員長挨拶



研修風景



甲賀市役所玄関前